



北海道アウトドアマスターガイド
ウィルダネスロジヒッコリーウインド
代表

安藤 誠

ANDO MAKOTO

88 歳を迎えた義父と私の
還暦祝いを昨年、阿寒
湖の鶴雅でさせていただいた。

義母は人生の大きな喜びのひとつとして鶴雅に泊まりたい、あそこは最高だねと言う。地域にそのような素敵なお場所がある奇跡。これは決して大げさな話ではない。まして当たり前のことではない奇跡だ。

これは創業から現在まで経営陣と社員一丸となって絶え間ない苦労を重ねながら歩んできた努力の賜物であること。今も決して忘れない鶴雅グループの冊子に20年以上前に駆け出しの我がヒッコリーウインドが

掲載されたこと。大西代表の安藤君のヒッコリーは鶴雅グループではないが、ここ東北北海道にお客さまが何度も足を運んでいただくには彼のガイドや仕事も欠かせないと言っていたこと。

まるで雷に打たれたような感動の衝撃を受けた。鶴雅グループにして考えているのは東北海道、いや北海道、いや日本全体の観光やツーリズムを心底想っている人だ。鶴雅から依頼される大学生への人材育成講座や外注ガイド等、全身全霊で応える覚悟が決まったときでもある。そして自分も東北北海道、

北海道、日本の観光や自然と人を繋げるガイドになり、人を育てると。

北海道にとって根底から大切なアイヌ文化への理解と発信。彫刻の藤戸竹喜氏や瀧口政満氏を始めとするアートへの造詣の深さ。阿寒アートギャラリーに至っては世界に東北道道の自然や野生動物の豊かさと私の写真作品を中心にプロジェクトを進めていただいている。それらは地域全体からの発信であり、地域の価値を認め高めていくこと。それは弛まないうちへの愛情が根底にあるということ。この場をお借りし

て、丁寧なマネジメントでお世話になっていた坂本氏、現松本常務、抜群のセンスでグループ内の調度品を管理する黒滝氏、影日向になって鶴雅を支える小山女将、ガイドの先輩であり同志の高田親子、アートギャラリースタッフの皆さんはじめ、鶴雅グループの皆さん、お父さん同様に地域愛溢れる大西希氏、代表の大西夫妻、私は社員ではありませんが、勝手ながら身内としての心意気で傍にいます。この度は70周年を心からお祝いさせていただき、感謝のメッセージとさせていただきます。